

2025/11/26

追分の学校を考える会

第3回

Newsletters



【開催概要】

日時：R7年11月26日（水）

9:30-12:00

15:30-18:00

18:00-20:30

場所：追分公民館 2F会議室

参加者数：合計31名

追分の歴史や文化を学び、 先人の思いを未来につなげました

第3回「追分の学校を考える会」は、11月26日（水）に朝・夕・夜の3部制で開催され、総勢31名の方にご参加いただきました。今回は、追分地区がこれまで大切に受け継いできた歴史や文化を、クイズ形式で楽しく学びながら、「これから地域と学校の姿」と一緒に考える時間となりました。

その学びを踏まえて、ワークショップ「追分地区で大切にしたいこと・残したい文化」と「学びの可能性マッピング」を実施しました。追分ならではの物語や価値を改めて見つめ直し、その上で「学校だけではない学びの場」をどのように広げていけるか、参加者同士で多様なアイデアを出し合いました。

前回のふりかえり

第2回では、「子どもが主役の学び」をつくるための大切な視点を共有しました。主体性や内発的動機づけを育てるここと、多様性を尊重する関わり、評価や環境づくりの見直しなど、これから学びの土台となる考え方を整理しました。



アイスブレイク

今回のアイスブレイクでは、追分の歴史や文化をクイズ形式でたどりながら、地域が育んできた“追分らしさ”を再確認しました。また、昔の映像を眺めながら、当時の風景や人々の暮らしを懐かしむ時間もあり、会場には「あの頃」を共有する温かな空気が広がりました。

追分のクイズ王は誰だ！ 鉄道とメロンのまちの秘密！

一部問題を抜粋！チャレンジしてみてね ※鳥越調べ



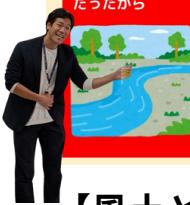
第1問

町の名前が「追分」となった由来とは？

A. 2つの川が分かれる場所だったから

B. 鉄道路線の分歧点だったから

C. 山道の分かれ目（峠の分岐）だったから



第4問

追分の森林地帯（現鹿公園）が明治35年に、保健保安林に登録されました。その理由はなにか。

A. 住んでいる人の余暇を楽しむ場を残すため

B. 観光客誘致のためのテーマパーク整備の一環として

C. 工業団地造成の代替地として



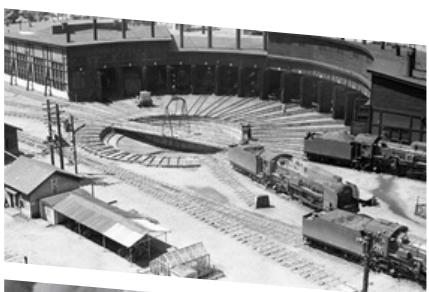
第7問

私（鳥越）は、子どもの頃たくさんのお話を聞いていました。野球、サッカー、柔道、書道、よさこいなど。野球を始めるタイミングでやめたお話をほとんどでしたが、書道だけは違う理由でやめました。その理由は何でしょう。

A. 落ち書きがなく座ってられないため破門された。

B. 友達とけんかして、その空間にいられなかった。

C. 書道にあきてしまった。



【風土と歴史がつくった追分の特徴】

■ 国鉄文化が育んだ「団結と支え合い」

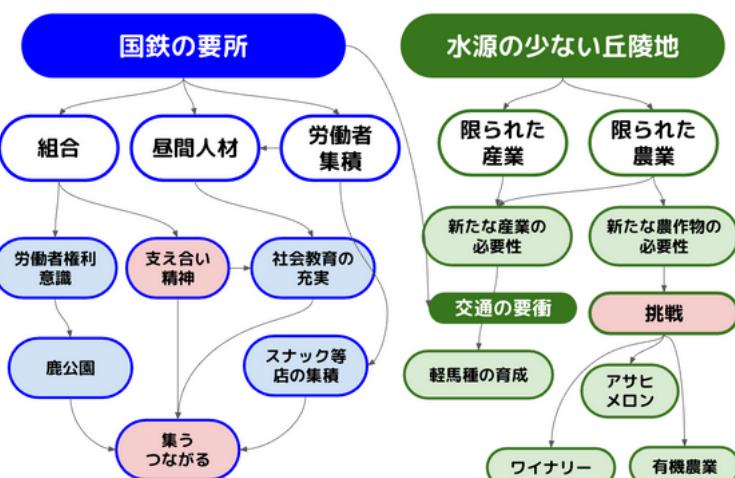
追分はかつて国鉄職員が多く暮らし、組合活動も活発でした。そこから生まれたのが、団結・協働の文化です。また、交代勤務によって生まれた「地域の担い手」が社会教育の充実を支え、スナックやカラオケといった娯楽文化、健康レジャーの広がりなど、当時としては先進的な地域文化が花開きました。

■ 水の乏しい丘陵地が生んだ「挑戦の精神」

追分はもともと水源が少なく、農業に厳しい土地でした。だからこそ土壤改良を重ね、アサヒメロンや有機農業といった新たな挑戦が芽生えました。この“挑戦するDNA”は現在のワイナリーともつながり、地域の新たな魅力を生み出しています。

■ 交通の要衝としての「ひらかれたまち」

追分は鉄道の分岐点として栄え、物流や人の流れが交わる場所でした。これが軽種馬の産地としての発展を支え、国内外とのつながりをつくりました。まちは昔から自然と「外へ開かれた場所」だったと言えます。



追分クイズ王！
おめでとうございます！



各部のクイズ王には景品を贈呈しました！

ワークショップ① 未来につなげたい追分の文化・思い

追分がこれまで大切に育んできた歴史や文化を振り返り、「未来に残したいもの」「次の世代に渡したい思い」を参加者全員で共有しました。国鉄文化に根付く団結・協働の精神、地域で支え合う暮らし、挑戦を重ねてきた農業の歩み、そして交通の要衝として培われたひらかれた気風など、追分ならではの価値が数多く挙がりました。



1. つながり・支え合い

国鉄文化や労組精神に根付いた「団結」「助け合い」の風土が地域の核にあります。おおらかで受容的、人の違いを許容し、困ったときは自然と手を差し伸べる文化。「心に余裕があるからこそ、人に分けられる」という価値観も共有され、未来へ受け継ぎたい地域性です。

4. 自然と暮らしの豊かさ

ガンケ山をはじめとした自然環境、季節の移ろい、虫取りができる原風景など、「自然と共に生きる暮らし」が魅力です。水が乏しい土地と向き合ってきた農業の努力も、追分らしい生活文化の一部です。

2. 集う文化、コミュニティの賑わい

祭りやイベント、町民運動会、スナックやカフェ、文化イベント（ロビコン・読み聞かせ）など、大人も子どもも集い楽しむ文化が豊かです。世代を超えて集まり、語らい、つながる「コミュニティの温度」が追分らしさを生み出しています。

5. ひらかれた多様性

外の人を歓迎する文化、移住者の受け入れ、芸術・音楽を大切にする姿勢など、多様な価値観にひらかれた地域性が挙がりました。交通の要衝であった歴史も、ひらかれた気風の背景になっています。

7. 子どもたちを育むまち

子どもを地域全体で支え、見守り、育てる文化が強くあります。習い事や活動の選択肢が多く、子どもが挑戦し、多様な体験ができる環境が整っている点も特徴です。

3. 挑戦・応援の風土

メロン・農業の挑戦、ワイナリー新規事業など、新しいことに挑戦する人を自然に応援する地域性。7班の「音楽や芸術など、チャレンジできる環境」も加わり、文化芸術面でも挑戦を肯定する「ひらかれた挑戦の土壤」が整理されました。

6. 誇り・歴史とレガシー

鉄道・SLの歴史や地域の歩み、OBの活躍、受け継がれてきた行事、謙虚さや器の大きさなど、人柄と地域の誇りがレガシーとして挙がりました。追分愛や地域への強い帰属意識は、未来にも継承すべき価値として整理できます。



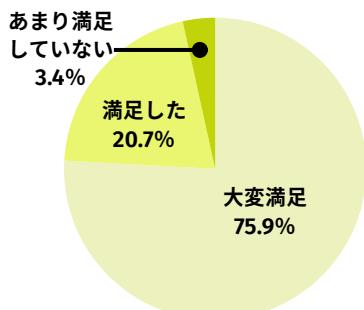
ワークショップ② 追分地区の学校だけじゃない学びの場、学びの可能性

地域資源（公民館・ぬくもりの湯・ENTRANCE等）を活かし、放課後の居場所、探究の場、創造スペースなど多様な学びの可能性を地図に落とし込みました。



参加者の声 一番印象に残ったことを教えてください！

第3回目の満足度



- ・国鉄が大きな基盤となっていたこと
 - ・地元愛、地域のつながりが強いということが本当に印象的でした！
 - ・どのグループでも「つながり」が出ていたこと！
 - ・追分の歴史的な背景が、今の人との関わりやチャレンジをサポートする精神につながっていることが面白かったです。
 - ・追分の歴史に触れることがなかったので、そこから未来を考えることが楽しかった
 - ・追分地域でやりたいことを学びにどうつなげるのか？が難しいなと思った。学びの目的をどこまで、恣意的に決めていいのか？子ども達の主体性はどうなるのか？大人としてどう判断すべきなのか、軸を考えて行きたいと思う。

(事後アンケートからの抜粋)

【今後のスケジュール】

終了 終了 終了

9/28
日曜日
9:00-12:00

終了

10/28
火曜日

終了

11/26
水曜日

4回目はコンヤプトづくりです！

4回目

12/18
木曜日

59

1/17
土曜日

6回目

2/8
日曜日

第4回 追分の学校を 考える会 申込フォーム



安平町教育委員会学校教育グループ TEL : 0145-29-7036
e-mail : gk-kyouiku@town.abira.lg.jp